

秋田県東成瀬村教育視察のまとめ

学力日本一 秋田県東成瀬村立東成瀬小・中学校視察から

～なぜ、毎年、日本一になれるのだろう？どこがすごいのだろう？～

1 児童・生徒の姿から

- (1) 児童（102人）・生徒（70人）同士の人間関係が良い。
 - ・小学校の時から助け合って生活している。（人のシャワーを浴びている）
 - ・授業中の発言に対して、周りは冷やかしたりすることなどない。
だから安心して自分の意見や考えを言える。
- (2) 家庭学習がすごい！
 - ・小学校1年から、家では家庭学習をするものと思っておりそれを実践している。 <自学ノート>
 - ・小学校3年からは自主学習を行っている。（自分でやりたい学習を行う）
 - ・ほとんどの児童・生徒が1年間にノート10冊以上の家庭学習をしている。
- (3) すべての教科の基盤となる読む力、書く力、表現する力が高い。
 - ・本をよく読んでいます。・新聞をよく読んでいます。・人前で発表することを嫌がらない。
- (4) 夢をもっている。
 - ・自分の生まれ育った村を誇りに思い、将来大きく羽ばたきたいという思いをもっている。
 - ・早い段階で自分の目標をもっている。



2 教育委員会・学校・教員の取組から

- (1) 教育委員会のリーダーシップ
 - ・共に学び合う教育の推進「人は人のシャワーを浴びて人になる」
 - ・村の良さを積極的に教育に取り入れる。（わが村体験、ふるさとの歌）
 - ・村の学習塾を設置（中学生対象、無料）
 - ・小中共通実践事項（8項目）の徹底（具体策は学校に任せ、大枠を指定） <夢の木>

① 授業改善	② 個に応じた指導	③ 学級集団づくり	④ 学習意欲の向上
⑤ 家庭との連携	⑥ 家庭学習	⑦ チャレンジ精神	⑧ 読書指導
- (2) 学校の取組
 - ・小中の連携（小学校で付けた力を土台に中学校でさらに伸ばす）
 - ・発達段階に応じた宿題（ノートコンクール：宿題ノートを展示し刺激し合う）
 - ・学校の壁の至るところに生徒の作品等が掲示され生徒が認められている。
 - ・図書の実践（図書室のみでなく、休憩室、廊下、階段踊り場に図書を設置）
 - ・特色ある教育活動（教科面談、ミニ討論会、全校吹奏楽活動、俳句集会、仙人思考力コンテスト、グローバル夢ミーティング、ポスターセッショングランプリ）



<廊下に置かれた図書>



<わが村体験>



<ポスターセッション>



<PSグランプリ各賞>

(3) 教員の取組

- ・すべての先生が探究型授業を追究し実践している。
- 「対話」をキーワードにした授業（課題との対話→仲間との対話→自己との対話）
- ・「課題把握→課題追究→まとめ→振り返り」の授業スタイルが徹底されている。
- ・授業の中での学び合いの場を大切にしている。
- ・すべての授業でTTの体制をとっている。（支援員、他教科の先生が入る）
- ・一人一人を大切にした授業（良い意見を取り上げみんなで認める。T2が困っている生徒を見つけ素早く対応）
- ・同僚性を生かした教員研修（空き時間の教師が参加する無理のないスタイル）
- 視点を変えた参観者のコメント→研究部報→全教員で共通理解

3 感想

教育委員会・小学校・中学校で村の子供たちをこう育てるという教育観を統一し、一貫した教育を地道に継続して取り組んできた結果が、学力日本一に繋がっていると感じた。